

- 問1 8世紀の奈良時代に出された墾田永年私財法により、開墾した土地を永久に自分のものにすることが認められた。これを利用して、貴族や大きな寺院が広がっていった私有地を何というか。 (2022年 青森県公立入試 類似)
1. 荘園 2. 惣村 3. 公地公民 4. 口分田
- 問2 古代の日本において、対馬や北九州の沿岸部に「防人」が配置された主な理由として、歴史的背景をふまえて最も適切なものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 蝦夷(えみし)と呼ばれる東北地方の人々の反乱を抑えるため 2. 元寇によるモンゴル帝国の襲来を未然に防ぐため 3. 種子島に伝来した鉄砲の技術が外部へ流出するのを防ぐため 4. 白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため
- 問3 奈良時代に編纂された書物のうち、中央政府の正史としてまとめられた『日本書紀』や『古事記』と比較した際の、『風土記』の特徴として適切な説明はどれですか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
1. 万葉仮名を用いて、天皇から防人や農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌をまとめた。 2. 律令制度に基づく税の徴収を目的として、各地の戸籍や土地の面積を詳細に記した。 3. 天皇の系譜や国家の成り立ちを、神話や伝説を交えて年代順に体系化した。 4. 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。
- 問4 奈良時代の中頃、聖武天皇は、社会の混乱を鎮めるために仏教の力によって国家の安泰をはかろうとしました。このような考え方を何といいますか。 (2023年 高知県公立入試 類似)
1. 神仏習合 2. 鎮護国家の思想 3. 末法思想 4. 浄土信仰
- 問5 古代の木簡には「肥後国(現在の熊本県)から綿を納める」といった記録が残されており、遠方の地域からも特産品が都へ運ばれていたことが分かります。当時の歴史書である『続日本紀』において、これらの品物を運搬した農民たちが直面した深刻な社会問題として記述されている内容はどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
1. 都までの道中で食料が尽き、飢えのために道端で亡くなる者が続出したこと 2. 運搬を担う農民があまりに多く、地方での稲作に深刻な人手不足が生じたこと 3. 運搬中に賊に襲われることを防ぐため、農民に武器の携帯が許可されたこと 4. 都での華やかな生活に触れた農民が、故郷の村へ帰るのを拒んだこと
- 問6 律令国家が「班田収授法」を定め、戸籍に基づいて6歳以上の男女に口分田を与えた目的と、その背景にある仕組みの説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
1. 土地の売買を自由化することで流通を活発にし、国家の財政を潤すため。 2. 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。 3. 能力の高い農民に多くの土地を優先的に配分し、農業の生産性を高めるため。 4. 貴族や寺社に広い私有地を与え、地方の開墾を効率的に進めさせるため。
- 問7 奈良の都を中心として、大陸の影響を受けた国際色豊かな文化が栄えた時代に関する説明として、聖武天皇ゆかりの品々や当時の国際交流を裏付ける宝物が納められた建物の名称を答えなさい。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
1. 鹿苑寺金閣 2. 正倉院 3. 法隆寺夢殿 4. 平等院鳳凰堂
- 問8 基盤の目状に整備された平城京の区画内に位置し、鑑真によって戒律が伝えられた唐招提寺が含まれる世界遺産「古都奈良の文化財」がある場所について、日本全国を対象とした地理的説明として最も適切なものを次から選びなさい。 (2022年 東京都公立入試 類似)
1. 近畿地方に位置し、古くから政治や文化の中心地として発展した奈良県周辺 2. 北海道地方に位置し、アイヌ文化や北方との交易の歴史を持つ地域 3. 九州地方の北部に位置し、古くから大陸との外交の窓口として機能した地域 4. 東北地方の南部に位置し、中世に奥州藤原氏が黄金文化を築いた福島県周辺
- 問9 聖武天皇の遺品などが納められている正倉院には、インドに起源を持つ楽器や、西アジアでつくられたとされるガラス製品が保存されています。これらの品々が8世紀の日本に存在している理由として、最も適切な背景を説明しているものはどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 勘合貿易を通じて、明(中国)からインド産の豪華な宝物が輸入されたから 2. 鑑真が、東南アジア諸国を経由して多くの工芸品を日本へ伝えたから 3. 南蛮貿易の開始により、西アジアのガラス細工が直接日本に届いたから 4. 遣唐使が、唐に集まっていた西域やインドなどの多様な文化を持ち帰ったから
- 問10 奈良時代の律令国家において、一般の成人男子が負っていた税や義務に関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 惣と呼ばれる農民の自治組織を通じて、村単位でまとめて労役の免除を申請していた。 2. すべての税を絹や布に統一して納めることが定められ、稲や特産物の納入は免除されていた。 3. 田の面積に応じて稲を納める租の負担が免除される代わりに、兵役のみが課されていた。 4. 特産物を納める調や労役に代わる布を納める庸など、重い税や労役の負担が課されていた。
- 問11 奈良時代には、国家の成り立ちや天皇による統治の由来を記した歴史書と並行して、地方の状況を詳しくまとめた『風土記』が編纂されました。この『風土記』の内容について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 三重県公立入試 類似)
1. 防人や貴族など、様々な立場の人々が詠んだ歌を集めた日本最古の和歌集である。 2. 天皇の系譜や神話を中心に、国家の正統性を主張するためにまとめられた。 3. 全国の土地の肥沃さや特産物、地名の由来や古い伝説などが記録された。 4. 仏教の力で国を守るため、聖武天皇の命により全国の国ごとに建立された。
- 問12 律令制度における土地の配分ルールについて説明した記述として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。なお、面積の単位である「段」を用いて説明するものとします。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 土地の配分は一生に一度だけ行われ、男女の区別なく一律に三段の区分田が支給された。 2. 開墾した土地は永久に私有が認められたが、その代わりに面積の一分を区分田として国に返還しなければならなかった。 3. 唐の制度にならい、全ての農民に二段の土地が与えられたが、女性には土地を受け取る権利が認められていなかった。 4. 戸籍に基づいて6年ごとに配分が行われ、良民の男性には二段、女性にはその三分の二の面積の区分田が与えられた。
- 問13 東大寺の正倉院には、ペルシャ風の文様が施された水差しや、熱帯地方を原産とする木材を用いた楽器など、アジア各地との交流を物語る品々が数多く納められています。このような、遣唐使などを通じて異国の文化を積極的に取り入れた天平文化の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
1. 町人の経済力を背景とした、華やかな元祿文化 2. 平安貴族の生活に基づいた、日本独自の国風文化 3. 唐の影響を強く受けた、国際色豊かな文化 4. 禅宗の影響を受けた、簡素で力強い武家文化

答え合わせ・解説

問1	答え 1 莊園	743年の墾田永年私財法によって土地の私有が認められると、有力な貴族や寺院は財力に物を言わせて開墾を進め、自らの支配地を拡大していった。これに対し、口分田は戸籍に基づいて人々に支給され、死ぬと国に返さなければならない土地である。公地公民は土地と人民を国家が直接支配するという原則であり、私有地の拡大によってこの原則は崩れていった。
問2	答え 4 白村江の戦いで敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本（倭）は、大陸からの報復や侵攻の危機に直面しました。これに対抗するため、九州の外交・軍事の拠点である大宰府や、その周辺の沿岸部を警備する必要が生じ、防人の制度が整えられました。
問3	答え 4 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。	風土記は、中央から派遣された国司がその国の情報をとりまとめたものです。朝廷が各地域の資源や文化を把握しようとした目的が背景にあります。一方で、日本書紀や古事記は天皇中心の国家形成の正当性を説くための歴史書であり、記述の対象や目的が異なります。
問4	答え 2 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代には、疫病の流行や政治的な混乱が続いていました。天皇はこれらを仏教の力で解決しようと考え、この思想に基づいて全国に寺院を建立するなどの政策を推し進めました。仏教を国家の統治に利用しようとした点が特徴です。
問5	答え 1 都までの道中で食料が尽き、飢えのために道端で亡くなる者が続出したこと	「調」などの税を都へ運ぶ「運脚」の義務を果たす際、農民は数ヶ月に及ぶこともある長旅の食料を自分たちで準備しなければなりません。しかし、貧しい農民にとって十分な食料を確保することは難しく、都へ行く途中や帰る途中で力尽き、飢死する者が絶えませんでした。こうした悲惨な状況は、律令制度が農民の犠牲の上に成り立っていたことを示しています。
問6	答え 2 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。	律令国家にとって、土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則は、国家財政を維持するための根幹でした。戸籍によって一人ひとりの人民を把握し、口分田を与える代わりに「租（収穫した稲の約3%）」などの税を課すことで、国家の収入を安定させる狙いがありました。そのため、私有地を増やすことや土地の自由な売買は、当初の律令制度の目的とは相反するものでした。
問7	答え 2 正倉院	奈良時代の天平文化を代表する建築物であり、聖武天皇の遺品や東大寺の儀式に使用された道具などが保管されています。校倉造という建築様式が用いられ、シルクロードを通じて西アジアやペルシャからもたらされた品々が含まれていることから、当時の日本が大陸と盛んに交流していたことがわかります。
問8	答え 1 近畿地方に位置し、古くから政治や文化の中心地として発展した奈良県周辺	唐招提寺は、現在の奈良県に位置しています。この地域は古代日本の政治の中心である平城京が置かれた場所であり、中国の唐の都にならった都市整備が行われました。九州北部や東北、北海道といった他の地域にもそれぞれ重要な文化遺産がありますが、律宗の拠点である唐招提寺や東大寺、興福寺などが集中しているのは近畿地方の奈良盆地です。
問9	答え 4 遣唐使が、唐に集まっていた西域やインドなどの多様な文化を持ち帰ったから	天平文化が国際色豊かなのは、当時の唐が中央アジア、西アジア、インドなどと盛んに交流していたことが大きな要因です。日本から派遣された遣唐使は、唐の都である長安などでこれらの地域の文化に触れ、宝物や技術として日本へ持ち帰りました。正倉院の宝物は、当時の日本が唐を窓口として間接的に世界とつながっていたことを示す貴重な資料となっています。
問10	答え 4 特産物を納める調や労役に代わる布を納める庸など、重い税や労役の負担が課されていた。	奈良時代の律令制では、男女ともに負担する租に加え、一般の成人男子には調（特産物）や庸（労役に代わる布）といった税や、兵役・雑徭などの重い労役が課されていました。惣は室町時代に見られる農民の自治組織です。
問11	答え 3 全国の土地の肥沃さや特産物、地名の由来や古い伝説などが記録された。	『風土記』は、中央政府が地方を管理するために、各国の経済的な資源（産物や土地の様子）や文化的な背景（地名の由来や伝承）を報告させたものです。一方、国家の成り立ちを記したものは『古事記』や『日本書紀』、和歌を集めたものは『万葉集』、仏教によって国を守るうとしたのは「国分寺・国分尼寺の建立」であり、それぞれ目的が異なります。
問12	答え 4 戸籍に基づいて6年ごとに配分が行われ、良民の男性には二段、女性にはその三分の二の面積の区分田が与えられた。	班田収授の法では、6年ごとに作成される戸籍に基づいて土地の再配分が行われる「六年一班」の原則がありました。支給される面積は性別や身分によって細かく規定されており、一般の農民（良民）の場合、男性は二段、女性はその三分の二（一反百二十歩）と定められていました。これは国家が安定的に税（租）を徴収するための仕組みでした。
問13	答え 3 唐の影響を強く受けた、国際色豊かな文化	奈良時代は遣唐使の派遣が盛んであり、当時の国際都市であった唐の長安から多くの文物がもたらされました。シルクロードを経由して西アジアや中央アジアの意匠も伝わったため、正倉院の宝物に見られるように、天平文化は当時の「世界文化」が凝縮されたような国際的な性格を持っています。